

令和2年度事業報告書

【本 部】

令和2年度の最大の特徴は何と云ってもコロナ禍の中でどのような保育を行っていくのか、また、保護者とのコミュニケーションをどうして構築していくのが大きな問題でした。さくらんぼでは感染者の状況によって変わるリスクレベルや非常事態宣言等を見ながら、保護者の保育室への入室禁止や廊下での受け渡しなど、色々な対策を考えながら感染防止対策を行ってきました。保育の場面においては、なるべく密にならないようにと考えてはいましたが、保育自体が3蜜にならなければやっていけない状況なので、保育士の皆さんも大変な心労でした。コロナ禍で経済的に厳しい中、入園を希望する人が増え、1次申し込みが済んで2次申請前にすでに、1歳から5歳まで入園枠不足が484人いて、熊本市から各園に受け入れ拡大の要請がありました。しかし、どこの園でもただでさえ保育士不足の中、受け入れ拡大は厳しい状況で、令和3年度も多くの保留児童が出たようです。ただ、ここ数年育児休暇を取得する家庭が増え、熊本市でも0歳児が定員に満たない園が増えています。そんな状況の中でもお陰様で、さくらんぼは毎年希望者が増えている状況で感謝しかありません。

異年齢保育も7年目をむかえ職員の振り返りの中で、保護者のくらしの保育への理解も定着していることが報告されています。また、昨年に続きに保護者アンケートを①保育について、②行事について、③職員について（園長含む）、④給食について、⑤総合満足度、の5項目について、5段階評価と文章で実施しました。その結果、保護者のさくらんぼの保育に対する理解や評価がさらに深まっていることがわかりました。総合満足度でみて93.3%の保護者が満足、6.7%がやや満足という結果が出ています。来年度からも保護者に保育内容や園に対してのアンケートを毎年実施して、保護者の思いや園への要望などを集約して更により良い関係を作っていきたいと思えます。

4月当初は145人からスタートし、毎月兄弟関係が入園し、年度末には170人の子ども達が在籍していました。いろいろな事情で途中転園の子どもも増えています。

3人の保育士が産休育休を取得しましたが、それを見越して職員配置を多めにしていましたので、運営に支障なく保育が出来ました。令和2年9月と令和3年2月からパート保育士の2人を中途採用しました。この保育士不足の中、有り難いことだと感謝しています。

法人として児童福祉の立場から「子どもの最善の利益は何か」を追求しながら時代の推移を見据えた運営をおこないました。法人の方針としては、地域の方々へ恩返しをしたいという思いから、下記の3点を念頭に運営して来ました。

- (1) 保育内容の充実と、地域と共に歩む保育の実践
- (2) 子どもの発達状況について、保護者との連携を密にし、乳幼児の健全な発達を図る
- (3) 職員資質の一層の向上

1. 理事会の開催（いずれの理事会もコロナ感染予防のため、文書での開催となりました）

- ・令和2年5月25日(月)

内部監査・監事監査報告、本部及び施設決算書審議、事業報告書審議、その他

- ・令和2年8月19日(水)

保育園北側の隣接地購入、隣接地購入に伴う第1次補正予算

- ・令和2年11月14日(土)

積立資産目的外使用協議

- ・令和2年12月25日(金)

第2次補正予算、人事院勧告による賞与の見直し、積立資産の使用目的変更、評議員選任解任委員

の推薦、園長の定年延長、評議員会開催

・令和2年3月26日（金）

第3次補正予算、事業計画案審議、予算案審議、就業規則変更、隣接地の登記完了と整備

【施設】

異年齢保育を始めて7年、保育士の移動がないので今年度はついに、平均勤続年数が13年になりチーム加算手当が700万位支給されたので、年度末に職員全員に500万ほどの一時金を支給しました。保育士全員に3つのテーマに沿って保育総括レポートを出してもらい、3月末にそれぞれのレポートを基に一年の総括をしました。

今年度は職員会議も、保育士の経験年数ごとに小グループを作り、意見が出しやすいように工夫をしました。

テーマⅠ 1年を振り返って

テーマⅡ 大人の連携について ①良かった点・工夫した点 ②気になった点

テーマⅢ 子ども同士の育ちあいを感じるエピソード・感じたこと（フリー保育士）

1. 保育内容の充実

例年、熊本市や県、保育園連盟主催の研修会に参加しました。また、全国保育問題研究会や九州保育団体合同研究集会などにも毎年提案し、毎月1回さくらんぼ保育園でおこなわれている異年齢研究会や熊本保育問題研究会、音楽教育の会などにも積極的に参加して学んできましたが、今年度はコロナの影響でほとんどの研修会が行われませんでした。

2. 入所児童の保育ニーズの多様化への対応

① 障がい児保育：3名の障がい児を受け入れました。

② 延長保育：1時間の延長保育をおこなっており、1年間で延べ2,649人が利用しました。

③ 自主的一時保育：希望者はありましたが、在園児が増えているため受け入れられませんでした。

3. 家庭と保育園の連携強化

① 毎週1回発行のおうちだよりにおいて、保育内容や子どもの様子等を知らせて、少しでも園への理解と子育て観を共有できるようにしました。

② コロナの影響で、毎年行っているお見知り遠足やクラス懇談会、保育参加などが対面では感染リスクがあるため、できませんでした。そこで3学期にズームを使ってそれぞれのおうち毎に交流会などを行いました。

③ 例年は下記のような催しを行ってきましたが、今年はほとんどコロナの影響で開催できませんでした。

「一人ぼっちの母親をなくそう」を合言葉に、保護者会主催でおうち懇談会や子育て講演会、親子でみんなでふれあい会、秋まつりバザー等を通して、保護者同士が関わりを持ち連携を深めました。

4. 給食運営

平成22年度より、五分づき米で和食を中心にして、野菜も無農薬で旬のもの、食材も無添加のもので、化学調味料は一切使用していません。さくらんぼ独自の献立を基本とし、栄養のバランスを考えた上で、園児の嗜好にも配慮して献立を作っています。特におうち毎に育てた野菜を使ってのクッキー

ングに取り組みました。おかげで子ども達の食への関心も高まり、好き嫌いの減少にも繋がっているように思います。

秋にはサンマを園庭で焼いてサンマまつりや手打ちうどん、焼いもパーティー、ホットケーキパーティー、ピクニック弁当など楽しい企画をたくさん行い、子ども達に食べることの楽しさを伝えています。

近年はアトピーやアレルギーの子ども達が増えてきたので、保護者と栄養士とおうち職員とで話し合う機会を設け、除去食等も積極的に取り組んでいます。また、毎日の献立の内容を保護者に知らせるために展示食を行い、全保護者を対象に試食会も行っており、給食アンケートでは100%の保護者が満足（やや満足含む）という結果が出ています。

5. 安全管理

登降園時の交通安全、災害訓練（消火・避難）、不審者に対する訓練、散歩先での交通安全を実施しました。特に熊本地震の後、子ども達が過敏になっているので、そこに配慮しながら訓練をおこないました。

6. 保健衛生管理

児童及び職員の健康診断、歯科検診などによる健康管理に配慮し、食中毒の予防対策として手洗いやうがいを行行しました。調理においては、食品衛生法に基づく指導基準を守り、食中毒を起こさないために衛生面に注意しました。H31年度からはハサップに基づく衛生管理を行うために、専門業者と契約し衛生管理をさらに充実させます。特に今年は、コロナ感染予防のため、手洗いやうがい、手指の殺菌などは重点的に実施しました。

7. 地域との連携

例年、泉ヶ丘校区の子育てネットワークの代表を仰せつかり、夏休みの園庭開放や子育てサークルへのホール無償貸与、子育て講演会などもおこなっておりますが、今年はコロナ感染防止のため、下記のような取り組みができませんでした。

【主な取り組み】

- ・おいで一緒にあそぼう会（8月）：地域の親子を招待して園児と一緒にリズムやゲームを楽しみました。
- ・お帰りのさい卒園児（8月）：卒園した1年生を呼んで里帰り体験
- ・親子でみんなでふれあい会（10月）：未就園児を招待して、運動遊びや親子でふれあい遊びをしています。
- ・さくらんぼ秋まつり（11月）：卒園児や未就園児、地域の方々を案内して飲食バザーや園児の出し物などをして交流。
- ・毎年6年生になった卒園児と保護者、それに職員も参加してクラス会をしています。